郡山市立小原田中学校
学校だより
No.5

手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒

令和２年５月８日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長　熊 坂　　洋

学校再開へ、少しずつ動き始めました!

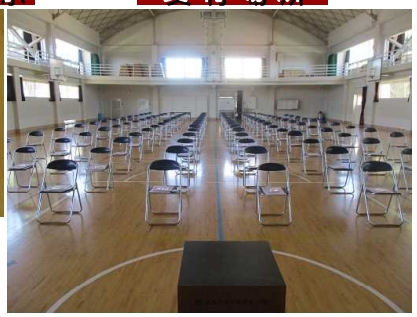
ゴールデンウイークも終わり、とは言っても、いつものゴールデンウイークとはほど遠い “ＳＴＡＹ HOME”の日々でした。体調はどうですか？気持ちは萎(な)えていませんか？…早く学校生活に戻り、仲間の顔が見たいと願う人も多いと思います。私自身も、４月１日に着任し、６日からスタートした生徒のみんなとの生活が２週間のみ、しかもマスク着用で顔すらもはっきり分からない、そんな状況が今もなお続いています。この状態がいつまで続くのか、生徒の声や笑顔が溢れる学校にいつ戻るのか、そんなネガティブな気持ちでしたが、学校再開へ向けた動きが少しずつ出てきました。

５月11日（月）［３年9:00～、２年13:30～］12日（火）［１年9:00～］は予定通りの登校日となります。持参物を再度確認し、交通事故には十分注意して登校してください。朝の検温、咳症状のチェックも忘れず行ってください。登校したら、昇降口から真っ直ぐ体育館に入ってください。写真のように会場がセッティングされています。

体育館入口の案内表示

受 付 場 所

座席と配付物


体育館全体の様子
（椅子の間隔を広く空けました）

その時に詳しく説明しますが、５月14日（木）から「分散登校」という学校再開に向けた段階的な教育活動が始まります。各学級を、出席番号の「奇数グループ」と「偶数グループ」の２分割にして、週に２日、午前中４時間の授業を行うことになります。ホームページに掲載した保護者宛の通知「重要 学校の臨時休業中における段階的な教育活動の実施について」を見てください。11日・12日の登校日には紙媒体で配付します。みんなには、遠ざかっていた学校生活をイメージしながら、分散登校、そして学校再開に向けて準備を整えてほしいと思います。みんなに会える日を楽しみにしています！

保護者の皆様へ　登校日・分散登校へのご理解・ご協力をお願いいたします

◆ 今回の登校日及び分散登校は、一斉臨時休業の期間が延長されたことに伴い、その際の生徒の学習保障や心身の健康の保持の観点から、分散登校等によって継続的に学習・生活支援を行い、学校再開に備えるために実施するものです。本校としましては、３密になる活動等の回避、換気、手洗い、消毒等、できる限りの感染対策を講じながら対応してまいります。登校の際の、検温、咳症状のチェックと「健康観察表」へのサイン・押印をお願いいたします。

◆ 欠席の場合は、学校への連絡をお願いいたします。登校への不安など心配なことや悩んでいることがありましたら、遠慮なく学校にご相談ください。

◆ 14日からの分散登校時には弁当の準備をお願いいたします。朝のお忙しい中での準備になりますが、ご協力をお願いいたします。

玄関・昇降口間の色とりどり花々

積み重ねてきたものは、決して無駄ではない！

今回の臨時休業中、運動部生徒のみんなには本当に残念なお知らせをしなければなりませんでした。

予定された日程での中体連支部大会及び県中地区大会の開催が中止となったことです。運動部の生徒、特に３年生にとっては、自分達が掲げてきた大きな目標のひとつが無くなってしまい残念に思った人が数多くいたと思います。部活動の目的は、技術の向上はもちろんですが、集中力、最後まであきらめない粘り強さ、本校のスローガンでもある克己心（自分に打ちかつ力）、切磋琢磨する力、チームワークなど、人間として生きる上で大切な能力や態度を養う場であります。３年生のみんなは約２年間部活動を通して様々な経験を積み重ねることで、仲間との絆を深め、大切なものを学び取ってきたと思います。その意味でも、中学校の集大成の場としての支部大会の存在は大きいものだったに違いありません。しかしながら、予定されていた大会の開催中止は、選手や大会役員等の安全が100%確保できる状況にないこと、大勢の人数が移動し集まることにより感染拡大が心配される状況にあることなどから、やむを得ない措置だと考えます。高校総体をはじめとする他の大会の中止を見てもそう思うしかありません。我々教員も心が痛みます。残念です。でも、小原田中生だけではない、郡山市、福島県、日本全国の中学３年生に課せられた試練であるということです。現在市中体連事務局では、日程を変えての支部大会の開催を検討しています。今後の感染状況等を踏まえて、実施するか、できないかの判断を６月中旬までに行うとのことです。今はそれを待つしかありません。そして、今まで部活動にかけてきた思いや努力は、君達のこれからに必ず生きていくものと信じます。これからの長い人生の中で、「そんな事もあったな」と振り返ることのできる時が必ずやって来ると思います。そして、制限・制約の中での生活ですが、もう一度、「今、やらなければならないこと」を考え、行動に移していくことが大切だと思います。

“エール”　石井先生作の黒板アート
平成30年度卒業生に贈った作品

最近読んで「なるほど！」と思った新聞記事（コラム）を紹介します。

「やっておいてよかった」「やっておけばよかった」

誰でも日常生活で経験することですが、このわずか2文字の違いの差はとてつもなく大きいものです。コロナウイルスの対応も、危機管理の鉄則「やっておいてよかった」が、国はどうだったか、各自治体は？会社やお店は？国民一人一人は？それぞれが今問われているのです。（中略）

（この筆者は、今社会では“批判”が渦巻いているとし、ｉＰＳ細胞の山中伸弥教授とサッカーの本田圭佑選手のこんな言葉を紹介しています。）

「すべての個人と公共がスタンドプレーを止めて、国を中心としたチームプレーに徹することが必要だと思います。」（山中教授）

五月晴れと満開のハナミズキ

「先ず医療関係者に感謝しましょう。…ずーっと政府に文句を言う？違うでしょう。全員を救うことはできない。優先順位の高い人を政府が助けて、僕ら国民一人一人が、政府が救えない人を支えられるかどうかでしょう。」（本田選手）

この２人の言葉に、ほっと救われた思いになり、文句を言うだけの人との人間性の違いを感じました。（中略）『次郎物語』の著者下村湖人が「未来は燈台（灯台）と同じように常に二つの意味の信号をかかげている。一つは『希望をもて』という意味。もう一つは『危険を警戒せよ』という意味。もし、この二つの意味の一方だけしか分からないとすれば、未来は我々を心からの笑顔をもって迎えてはくれない」（『青春の思索のために』）と書いていることを思い出した。

未来が笑顔で迎えてくれるように、また「やっておけばよかった」と後悔しないように、皆で賢く心を一つにして国難を乗り越えたいものです。

～福島民友 4/28　土屋秀宇氏～